

令和6年度学校経営方針

静岡大学教育学部附属特別支援学校

1 学校教育目標

心身ともに健康で、積極的に社会に参画する人の育成をめざす

2 めざす児童生徒の姿

『生活を切り開く人』

- 〔具体的な姿〕 ○ 心身ともに健康な人 ○ 身の回りのことは自分でする人
○ 集団生活に積極的に参加する人 ○ 意欲的に学習や作業に取り組む人

3 各学部の目標

(1) 学部目標

小学部 『身近な人やものとのかかわりを広げ、夢中になって活動する児童を育てる』

中学部 『仲間との関わりを広げ、あこがれをもち目的に向かって活動する生徒を育てる』

高等部 『地域社会との関わりを広げ、やりがいをもって学び挑戦する生徒を育てる』

(2) 具体目標

小学部	中学部	高等部
○明るく元気に活動できる心と体づくりに努める。	○仲間とともに活動する中で、互いを思いやり、協働する力を高めるとともに、他者理解を通して自己理解を深める。	○将来を豊かに過ごすための、心と体づくりに努める。
○様々な体験を通して興味関心を広げるとともに、コミュニケーション能力を育む。	○将来や今の生活への希望や期待感をもち、その実現を目指して自分らしく努力する力を高める。	○人や地域との関わりの中で、主体的に協働したり、共感したりして活動する姿勢を身に付ける。

4 中長期的目標(3年間)【子ども・教職員が「行きたい」、保護者が「行かせたい」、地域の方が「あって良かった」の想いに挑戦する附属学校】

<安心・安全>

- ・心身の健康を自ら育み、安心で安全な生活ができる学校
- ・人権教育を推進すると共に人権感覚を養い、実践する学校

<確かな学び>

- ・自分らしく学び、考え、学びの繋がりを実感できる授業実践を進める学校
- ・地域で生きる姿を目指した教育実践を進める学校

<附属学校としての役割>

- ・大学や全国の附属学校等との繋がりを図り、教育実践、教育研究、教育実習を進める学校
- ・附属学校の特色を活かした地域との連携を図り、魅力ある学校づくりを進める学校

5 令和6年度の重点 【50周年の1年を次の50年へのスタートとなる年度とする】

	取組目標	達成方法（取組手段）	評価項目	主な担当
安心・安全	子どもが自ら育む健康で安心な生活づくり	・自分にとっての健康につながる口内健康の維持に必要な自衛手段に対する考えを広げる授業実践	・子どもが歯磨きやよく噛んで食べること等、自分の体の健康を守るために進んで取り組む姿	保健体育
		・場に応じた指導や体験型研修会を通して、子ども自身の日常の防災意識や危険を予知する活動の推進	・子どもが日常生活の中で身近に潜む危険を見付けたり、対応策を考えたりする姿	保健体育 生徒指導
	子どもが自分や周りの人を大切に考える行動づくり	・ふれあい活動や日常的な活動を通して、いいねカードを活用した互いを認め合う実践の推進	・互いを認め合い、友達と共に学ぶ子どもたちの姿	生徒指導
		・自分のリスク認知の特性の目安になる「リスク診断」や多面的な視点から自覚化を促す「情報モラル教育」の実践	・リスクを認知し、自分や周りの人を大切にしてICTを活用する子どもの姿	情報教育
確かな学び	子どもが学びの繋がりを実感できる教育活動づくり	・子ども理解に基づき、自分らしく学び、活躍する授業づくりの推進 ・子どもの変容を捉え、授業改善を行うためのエピソード記録と分析	・子どもの変容を捉え、生かすことで、子どもが自分らしく活躍する授業づくり	研究
		・発達の視点での子ども理解を深める研修会の実施 ・子ども自身が諸計画に参画するプロセスの構築 ・子どもの思いと生活の広がりを捉えるツール（仮：私の豊かな生活ひろがりマップ）の作成	・子ども自身の成長の道標や発達の指標となる個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成	教務 進路指導 特別支援
附属学校としての役割	大学・他附属学校等と連携した教育実践の推進	・先行研究を踏まえ、オリジナリティの要素を明確にした研究実践 ・多様な大学の専門家等との共同研究 ・学校運営を研究の視点で改善推進	・研究的視点での教育実践の成果の蓄積	全分掌
	教職の想いを高める教育実習の充実	・子どもとの直接的な関わり場面からの想いを大事にした実習指導 ・実習生のあこがれとなる教師の言動 ・実習目的を明確にした事前指導	・実習生の特別支援教育への想いの向上と自分の将来へつながる経験ができた実習	教育実習委員会